

# 第5回 尼崎らしいまちづくりのルールを考える市民懇話会

## 次 第

日 時 平成27年2月14日(土)14時から  
場 所 小田地区会館大会議室

1 事務局あいさつ

2 久先生話題提供 「地域コミュニティの活性化について」

3 グループワーク 「地域コミュニティの活性化について」

- ・地域のつながりの必要性、意義・役割は何か？
- ・緊急時にも助け合い、支えあいができるような地域のつながりをつくるためには、普段からどうすれば良いか？

4 振り返りシート記入

5 次回のご案内

日 時：平成27年3月15日(日)午後1時30分から午後4時まで  
場 所：中央公民館小ホール  
テーマ：地域自治について

以 上

# 意見交換の各テーマの関係性イメージ

～自治を進める上において必要なテーマで、意見交換を行います～

## 住民自治の推進

### 情報の共有 <第3回>

市政の情報

市民活動・地域の情報

市政への参画  
<第4回>

住民投票 <第8回>

身近な地域での自治  
(地域コミュニティの活性化)  
<第5,6回>

今日はここ!

### 各主体の権利と責務 <第7回>

行政

市民  
個人

町会

市民  
団体

事業  
者等

付託を受けて運営

住民自治を支える姿勢

行政運営 <第9回>  
(団体自治に関する主要な事項)

テーマ「市政参画を進める上での課題」

第4回(H26.12.14) 尼崎らしいまちづくりのルールを考える市民懇話会「意見交換で出た課題」のまとめ

① 私の課題	② みんなの課題	③ 行政の課題
<p><b>市政を身近に感じない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なものではなく、自分には関係がない</li> </ul> <p><b>小難しいイメージがある</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいイメージがあり、気軽にできないし、またできると知らない</li> </ul> <p><b>関わらなくても困らないし、利害がない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、困っていないので日常の生活上、参画を必要としない</li> <li>・自分に直接、利害が絡まない事には関心がもてないのではないか</li> </ul> <p><b>「個人」として関わる意味がわからない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割が見えない、分からない</li> </ul> <p><b>任せておけばよい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お任せ意識が強い</li> </ul> <p><b>関わる時間がない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常が忙しく参加できない</li> </ul> <p><b>人間関係が狭く、億劫である</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の狭さから、外に興味を持ってない</li> </ul>	<p><b>つながり(関係性)が希薄になっている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと人として付き合えれば</li> <li>・利害関係に縛られる。特に会社</li> </ul> <p><b>井戸端会議が魅力的でない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井戸端会議は達成感がない</li> <li>・井戸端会議は一般市民が参加していない</li> </ul>	<p><b>「参画」という言葉のイメージが悪い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参画が義務っぽい</li> <li>・「市政参画」ダサイ！</li> <li>・ソフトなイメージがあまりない</li> </ul>
<p><b>地域への愛着がない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転勤族なので地域に関わりがない</li> <li>・地域に愛着が持てないのでは</li> <li>・「わたしたちの尼崎」(教科書)の威力が薄い</li> </ul>	<p><b>町会の役割がわかりにくい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の存在がよくわからない</li> <li>・町内会長はどうやったらわかるのか？</li> <li>・町会に行くきっかけがわからない</li> <li>・町会、組織が参画の働きをしていない</li> </ul>	
<p><b>参画の方法がわからない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度を知らない(対象の情報不足)</li> <li>・情報の共有ができていない</li> </ul> <p><b>意見を誰にどう伝えればいいのかわからない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の意見をどの団体に伝えて、行政に伝えてもらえるかわからない</li> </ul>		<p><b>参画に関する制度の周知が図れていない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の周知不足</li> </ul> <p><b>「受け手」を意識した情報の仕分けと発信ができていない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての情報を全ての住民が知らなければならないと思っている</li> </ul> <p><b>情報媒体を上手く活用できていない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を知らない(市報、HPとラインくらい)</li> <li>・市役所のHPは使いにくい</li> <li>・HPから欲しい情報にたどり着けない</li> <li>・結局、最後は電話連絡になっている</li> </ul>
<p><b>意見を出すメリットがない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メリットがあると思えない</li> </ul> <p><b>意見を出しても反映されない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を言っても反映されないのでは、期待しても無理という諦めの気持ちがある</li> <li>・参加する意欲が沸かない</li> </ul>	<p><b>意見を出しても反映されない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な制度を利用しようという意識があまりない</li> <li>・行政に対して意見を言ってもあまり意味がないという諦めの気持ちがある</li> </ul>	<p><b>意見を聴くだけで終わっている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度が形だけになっている</li> <li>・意見を聴くだけ。実現できているの？</li> <li>・フィードバックがない</li> </ul> <p><b>本当に市民の意見を聴きたいと思っているのか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参画は市の本音？</li> <li>・そもそも行政は本当に市民の意見を聴きたいのか</li> <li>・市民から提案や意見を聴く意識はあるのか</li> </ul>
	<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人と行政のつなぎとめになるような活動(ボランティア)</li> <li>・同じ意見の方で集まると大きな個人</li> <li>・投票の選択肢が少ない</li> </ul>	<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特活の時間が国語になったり、フリーの単限みたいな扱いになっていた</li> </ul>

テーマ「市政参画を進める上で、それぞれが取り組むこと」

第4回(H26.12.14) 尼崎らしいまちづくりのルールを考える市民懇話会「振り返りシート」のまとめ

① 私がすること、できること	② みんなですること、できること	③ 行政主体ですること、①②のために行政がすること
<p><b>自ら、身近なところからつながりをつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご近所で友達をつくる（仲間づくり）</li> <li>・近所で起きていることに関心を持ち、近所付き合いを活発にする</li> <li>・「つながる」大切さを理解する</li> </ul> <p><b>自ら、積極的に参画してみる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しやすそうな町会行事や市の行事などイベントに積極的に参加する（地域を知る）</li> <li>・「市政参画」という言葉の硬さに遠のいていたけど自分から少し壁を崩して参加する</li> </ul> <p><b>自ら、身近な人を巻き込む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人が2人を連れてくる</li> <li>・自分が興味を持てたことを他の人も誘って巻き込む</li> <li>・自分が参加し、メリットを伝え、知人や友達を次回参加に誘う</li> <li>・「参加したら楽しいで!」「面白いで!」と身近な人に伝える</li> <li>・今回の活動を家族、友人などに伝える</li> <li>・自分が必要だと感じた事に対して、1人でも多くの人を地道に巻き込み続ける</li> <li>・自分が知ったことを人に伝えること、口コミが大きな成果を生むことがある</li> <li>・ツイッターやfacebook等で尼崎市のことについての意見を拡散させる</li> <li>・地域の問題点を解決する為、問題改善、解決し、同意する人々を日頃のお付き合いの中で募っていく</li> </ul>	<p><b>みんなで、身近な地域でつながりをつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が尼崎でできること、できそうなこと、してみたいことを共有し合う。じゃあ一緒にやれるよね、やってみない?という関係性づくり</li> <li>・顔の見える関係を地域につくる</li> <li>・イベント（あまセミ）の開催によって、顔の見える関係をたくさんつくり、関心をもってもらう</li> <li>・地域の連帯</li> <li>・口コミで人の輪を広げていく</li> </ul> <p><b>みんなで、地域の課題や住んでいる人に関心を持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず地域の課題をあぶりだす</li> <li>・問題を把握することで、地域への関心が高まるのではないか。「地域で共有」を「行政と共有」へ繋げる</li> <li>・地域の人たちをまず知ること（近くに誰が住んでいるのか）の共有</li> <li>・皆が集まったら何ができるのか、どんな力があるのか調べてみる</li> </ul> <p><b>地域ですることに取り組む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ですることは地域の有志でトライする</li> <li>・見回り事業。コミュニティ構築に寄与</li> <li>・だんじりなどもっとお祭りをする</li> <li>・災害別ハザードマップや車イスマップの作成</li> <li>・市政参画の大切さを住民が主体となって広めていく</li> </ul>	<p><b>参画を促す情報をわかりやすく届ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体をはじめ多くの人々に情報を提供し、参画を促す</li> <li>・これを達成すると個人にこういうメリットが出てくるという具体的な成功例を示す</li> </ul> <p><b>市政に興味を持ってもらえるよう工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参画したら面白そうなきっかけや仕掛けをつくる</li> <li>・芸能人、市長、職員を効果的に使う</li> <li>・尼崎市の有名人に意見を聴く広告をしてもらう</li> <li>・市制100周年に向けて、有名人（尼崎在住、出身）を招き、尼崎市に人の流れを生み出す。</li> </ul>
<p><b>町会に興味を持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは町内に対して関心を持つこと</li> <li>・町内会長は誰か?町内会費はいくらか?等々</li> </ul> <p><b>町会に気軽に入れるようにする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練など町会に入るきっかけをつくる</li> <li>・市とつなぐ役の町会へ参加する</li> <li>・市民の中にある「お任せ」意識を少しでも克服するために、町内会（自治会）の取り組みに参画する</li> </ul>	<p><b>町会を魅力あるものにして、良さを伝える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会を楽しいものにする</li> <li>・町内会に入る人にとってメリットがあるようにする</li> <li>・町内会を面倒くさがる人がいれば、「楽しいから一緒に行こう」と誘う</li> <li>・町内会が全く機能していないので改革する</li> <li>・町内会や子ども会を活性化させる</li> </ul>	
<p><b>自ら、気軽に交流できる場をつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達、町会など小さいグループで懇話会を開いてみる</li> <li>・尼崎に住んでいる人たちで、役割とか所属とか関係なく、とりあえず交流してみる</li> </ul>	<p><b>地域でみんなが話し合える場をつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でつながること</li> <li>・地域の色々な団体や小さいグループが集まって地域の困りごとなどを話し合える場をつくる</li> <li>・町会、NPOなど団体での意見交換を行う</li> </ul>	<p><b>広くみんなが話し合える場をつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少しでも多く、今回のような場を諦めずに継続して提供し続ける</li> </ul> <p><b>テーマごとにみんなが話し合える場をつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な問題、一題一題をテーマとした議論の場を設置し、様々な媒体を通じて広報していく</li> </ul>
<p><b>「場」の持ち方を工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政とか参画とかはすぐには難しいと思うのでゆるい感じから始める（「朝活 in 尼崎」「アマバタカイギ」など）</li> </ul>	<p><b>「場」の持ち方を工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは楽しく交流をしてみる（「アマバタカイギ」など）</li> <li>・参画する楽しさを持ってもらう</li> <li>（世代別、カテゴリー別、世代間交流）</li> <li>カフェ的（おしゃべり重視）、共同作業的（掃除、調理など）</li> <li>・防災訓練を地域のことをよく知るきっかけとし、市全体で強制参加の形で行う（防災と地域コミュニティの活性化の一石二鳥）</li> </ul>	<p><b>「場」の持ち方を工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政主催より市民団体主催の方が面白いイベントが多いという話もあるが、行政が伴走者になると良いのではないか</li> <li>・もう少しユーモアになってみる</li> <li>・デザインの力をもう少し取り入れる</li> </ul>
<p><b>地域のリーダーに協力する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノウハウがある人のリーダーシップが必要</li> </ul>	<p><b>地域のリーダーを育成する</b></p>	<p><b>地域のリーダー育成を支援する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりのリーダー育成をあらゆる機会を通じて行う</li> <li>・ファシリテーターのノウハウを有する個人を育成する</li> </ul>
<p><b>シチズンシップを身に付ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シチズンシップ教育に興味を持ち、身近なところから動かす経験を自分も含め、みんなでするようにする</li> <li>・市政に関心を持ち、参政権は放棄しない</li> </ul>	<p><b>地域でシチズンシップを育む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から地域を最低単位とした世の中の仕組みをずっと教える</li> <li>・尼崎を良くすると自分にもメリットが将来出てくることを理解すること</li> </ul>	<p><b>シチズンシップを育む機会をつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育や様々な機会でも参画の意識を引き出す</li> <li>・大人対象じゃなくて子ども対象の企画をつくってみる</li> </ul>

① 私がすること、できること	② みんなですること、できること	③ 行政主体ですること、①②のために行政がすること
<p><b>議員や行政職員と知り合いになる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政治家、市職員さんとの交流会</li> <li>・議員の活動を知る</li> <li>・議員に頼み、市の取り組み、尼崎市をどの様にしていきたいかなど交流会に来てもらい、トークセッション会を開く、又、その様子をネット上にアップする</li> </ul>	<p><b>行政とのつながりをつくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市と地域団体との結びつきを強める</li> </ul>	<p><b>市民と交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民」と友達になる</li> <li>「行政職員です」ではなく、1人の人間とし関わることが大事。ときには本音を暴露することも良いのではないか。「正直、市政参画とか言っているけど私も全然わからない」</li> <li>・意識的に各団体と接触する機会をつくる</li> <li>・行政は市民が何を求めているかにも目を向ける</li> </ul> <p><b>市議会議員が市民との距離を縮める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員は普段から市民の中に入っていく</li> <li>・議員がもっと市民と行政の橋渡しをする</li> <li>・議員は facebook など国民にとって身近なもので活動報告などをする</li> <li>・議員の活用。市で決まったことの広報的な役割をさせるなど</li> </ul>
<p><b>身近な課題などを行政に伝えてみる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気付いたことがあれば、まちづくり提案箱に意見を投稿するようにする</li> <li>・身近な問題の「存在」を行政側に伝える</li> </ul>	<p><b>身近な課題などを行政に伝えてみる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所付き合いの中で共通して困っていることがあれば署名を集めて、市役所に提出する</li> </ul>	<p><b>意見などを言いやすくする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の名前をもっとわかりやすくしてみるなど、市政参画の入り口をもっと広くする</li> <li>・町内に目安箱のようなものを設置し、自由に意見を入れられるようにする</li> <li>・意見を積極的に言うともメリットがあるようにする 参画ポイントの付与など</li> </ul> <p><b>市民の声にきちんと応える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の声でこういう風になりました、などの結果を知らせる</li> <li>・市民の意見で実際に行政が動いた事例をHPに掲載する</li> <li>・市民1人1人の意見の中で、特に多かった意見に対して、市のHPで回答する</li> <li>・意見を聴くだけではなく、フィードバックする</li> </ul>
<p><b>市政情報を積極的に収集する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政について、自分から情報を得るという姿勢を持たないといけない時に来ているのではないか</li> <li>・市のHP、広報誌や議会だよりにしっかり目を通す</li> </ul>	<p><b>市政情報を積極的に収集する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる市政参画の内容別の情報公開をグループ、団体として広く求める。</li> </ul>	<p><b>情報発信の手法を工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市報の表紙を工夫する</li> <li>・SNSをもっと活用して情報発信する</li> </ul> <p><b>情報発信した後、きちんと振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市制度についても、45万人の市民にどれだけ認知されているか、常に精査し広報する</li> </ul>
	<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人で人は変えられないので、みんなのことはみんなが考えて動いてもらうしかない（自分で変えられるのは自分だけ）</li> </ul>	<p><b>その他(地域自治を考える)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区制を導入する</li> </ul>

# 地域コミュニティの活性化について

近畿大学総合社会学部教授 久 隆浩

## 1 町内会・自治会を改めて考える

紙屋高雪 『“町内会”は義務ですか? —コミュニティと自由の実践』

地域コミュニティは大切…でも面倒は極力避けたい…そんな建前と本音が現実になる場が、町内会・自治会。団塊Jr.世代の著者は町内会長(自治会長)をついひきうけてしまい、その仕組みと実態に驚きつつ、てんてこまいに。ちょっとした成果に充実感をえたりもしたが、最後は“つるしあげ”にあった末、一風変わった「ミニマムで楽しくラクな町内会」の創生へと至った。体験を通し、歴史や、法的な位置づけ、統計データも踏まえ、町内会・自治会の今後のあり方を提言する。  
「BOOK」データベースより

なぜ、近所づきあいがなくても何とかやっていけるのか

自治会の役割

地域の意思決定機関 / 互助会 / 親睦会

互助の役割の低下 ← 制度やお金で解決できる

親睦の役割の低下 ← 楽しみのメニューが多様に

意思決定のむずかしさ ← 価値観・ライフスタイルの多様化

人任せなのに文句を言う人の増加

## 2 地域活動の動き方

	階層組織型	ネットワーク型
構成員の関係性	上下関係	水平関係
意思決定	上層部で決定	みんなで考える(意思決定がないときも)
活動形態	指示・命令で一丸となって動く	自発的に、できること／やりたいことを行う
	やらねばならないことを使命感で	やりたいことを楽しく
秩序形成	管理	自律
核となる人	リーダー	ファシリテーター

ネットワーク：責任の所在があいまいに、管理が苦手 → 自律

リーダー：引っ張っていく、仕切る、指示する

ファシリテーター：気づきを促す、みんなが動ける環境やきっかけをつくる

短期間に答が必要な活動：リーダーが組織を率いる

長続きさせる活動：ファシリテーターが自発性を促す

堺市南区新檜尾台連合自治会の活動展開／ 実行委員会方式

期間限定／分野限定

どんなときに困るのか → 困ったときはどのように対応するか



## 今日の目的（ゴール）

『地域のつながり』がなぜ必要か、また緊急時にも助け合い、支えあいができるような地域のつながりをつくるためには、普段からどうすれば良いかについて、様々な視点から意見交換を行い、地域のつながりをつくるために「個人としてどう関わるか」、また「地域としてどうすれば良いか」を「振り返りシート」に書き落とします。



## 進行予定

	内容	時間
説明	事務局より進め方、グラドルールについて	10分
第1セッション	<p><b>「地域のつながりの必要性、意義・役割」について意見交換</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に自己紹介（1人20秒・名前と属性くらい）</li> <li>・テーブルホスト役を各班1人決めます</li> <li>・付箋に「必要性や意義・役割」を書き出しましょう（できるだけ多く）</li> <li>・書いたことを口にしながらか模造紙に貼っていきます（似た意見を集めながら）</li> <li>・各自、どうしてそのように思うのか意見交換します</li> </ul>	25分
移動	テーブルホスト1人を残して、他のメンバーはそれぞれ別のテーブルへ	5分
第2セッション	<p><b>「必要性や意義・役割」、「地域のつながりをつくるためには、普段からどうすれば良いか」を意見交換</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に自己紹介（1人20秒・名前と属性くらい）</li> <li>・テーブルホストは、第1セッションで出た「必要性や意義・役割」についての意見を紹介します</li> <li>・新しいメンバーは、自分のグループで出された意見を紹介し、お互いに感じたことなどを話し合います</li> <li>・大事だなと思ったことがあれば付箋に書いて貼りましょう</li> <li>・続いて、付箋に「地域のつながりをつくるためには、普段からどうすれば良いか」を書き出しましょう（できるだけ多く）</li> <li>・書いたことを口にしながらか模造紙に貼っていきます（似た意見を集めながら）</li> <li>・各自、どうしてそのように思うのか意見交換します</li> </ul>	25分
移動	テーブルホスト1人を残して、他のメンバーはそれぞれ別のテーブルへ	5分
第3セッション	<p><b>「地域のつながりをつくるためには、普段からどうすれば良いか」を意見交換</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単に自己紹介（1人20秒・名前と属性くらい）</li> <li>・テーブルホストは、第2セッションまでに出た意見を紹介します</li> <li>・新しいメンバーは、自分のグループで出された意見を紹介し、お互いに感じたことなどを話し合います</li> <li>・大事だなと思ったことがあれば付箋に書いて貼りましょう</li> </ul>	25分



## グループワークのすすめかた



### ワールドカフェとは・・・

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づき、コミュニケーションの手法です。

何かひとつの結論を出すことや、議論することが目的とするのではなく、様々な人の考え方に触れて、一人ひとりが「気づき」を得ることができる場をつくります。様々な企業や団体、コミュニティで、研修や組織の活性化などに活用されています。



### カフェのルール

#### ◆意見をまとめたり、議論するための場ではありません

正解や間違いはありませんので、テーマに関連して、感じたこと・思いついたことを気楽かつ自由に話してください。

#### ◆発言は順番をお願いします

他のメンバーの発言をさえぎったり、同時に話したりするのは控えてください。

#### ◆職種、役職は抜きにして、リラックスして対話を楽しみましょう

他のメンバーの意見を否定したり、誰かを責めたりするのは控えてください。

#### ◆自分に何ができるか考えましょう

できるだけ「〇〇に××をしてほしい」といったお願いだけに偏らないようにしてください。

#### ◆付箋にはプロッキーで簡潔に書きましょう

アイデアや思いついたことは、他のメンバーにも読みやすいように簡潔にまとめて書いてください。

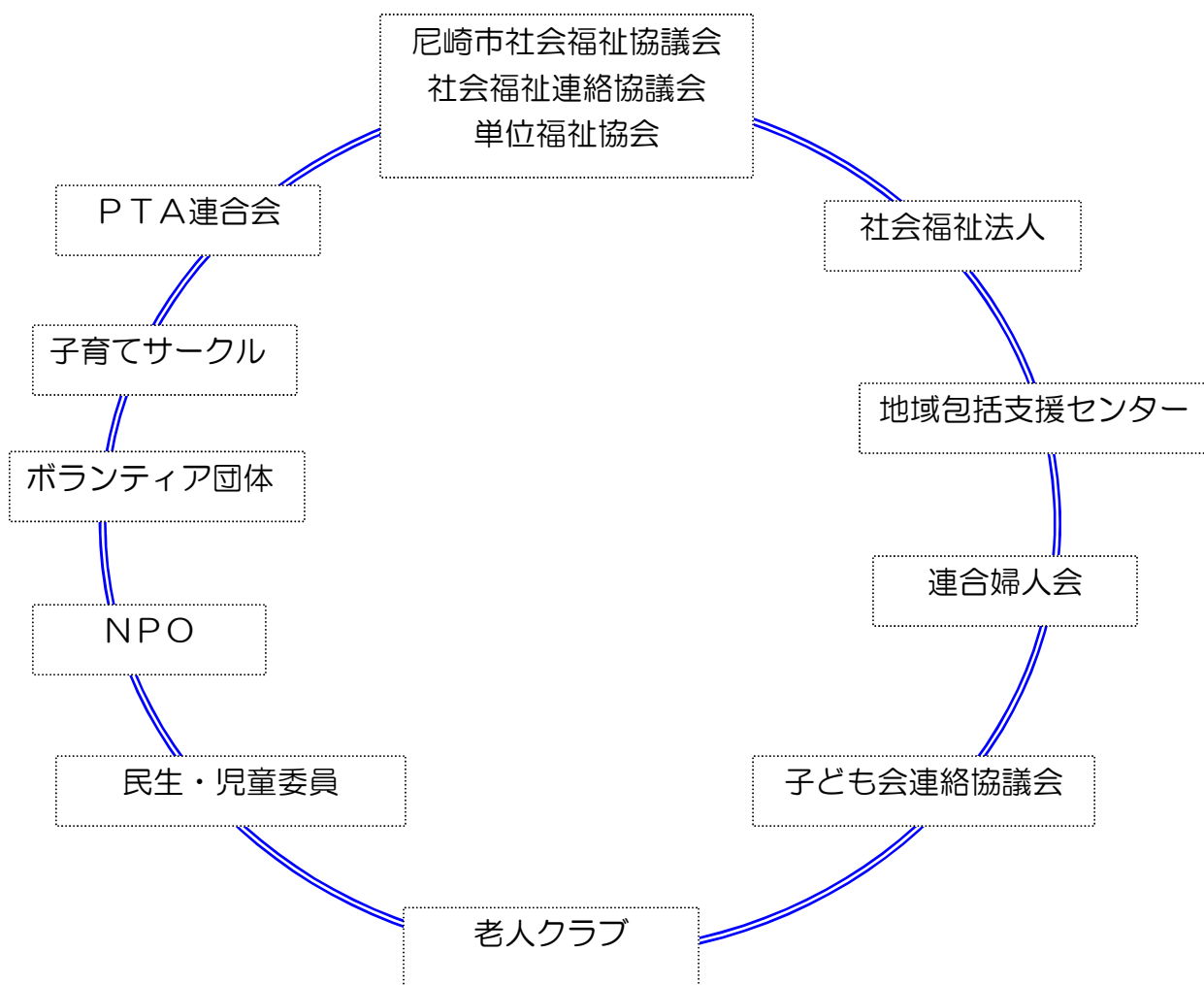


### テーブルホストは・・・

同じテーブルに残り、自分のテーブルで話された内容を新しいメンバーに説明しましょう。

## 地域で活動している団体について

地域では、例えば高齢者見守りなどの活動を、次のような様々な団体が連携しながら行っています。このような活動が活発に行われているところもあれば、そうでないところもあり、地域性が見られます。



## 第5回 尼崎らしいまちづくりのルールを考える市民懇話会「振り返りシート」

氏名 \_\_\_\_\_

(1)久先生の話提供及びグループでの意見交換を経てのお考えをお書きください。  
緊急時にも助け合い、支えあいができるような地域のつながりをつくるために・・・

①個人としてどう関わるか

②地域としてどうすれば良いか（町会、市民団体など）

(2)本日の懇話会で感じたことなどがありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

# 尼崎市の地域コミュニティ

## ●尼崎市域の変遷

大正5年（1916） 東・西難波を加え、尼崎市誕生

## ●現在の区域ができるまでの経緯

- ・集落（庄屋中心に官の支配。権利・利権も絡む）→大字（おおあざ）  
→現在の社会福祉連絡協議会（連協）の区域  
⇒歴史の中で出来上がってきたもの。戦前後は配給制度を動かす単位としても機能
- ・一方、学校の配置は戦後、人口急増期に土地的制約により場所が決まったことが多い

## ●新旧住民

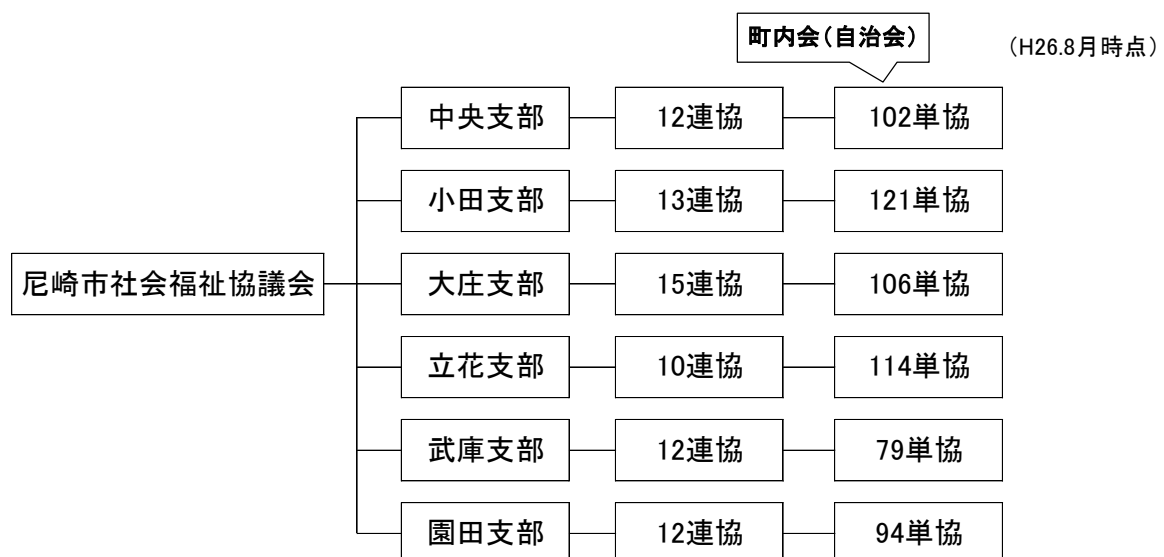
- ・城下町以来…旧住民
- ・高度成長期の工場労働者（主に南部）、住宅開発後居住者（主に北部）…新住民  
⇒住民と一口にいても新旧住民では、考え方や価値観が異なる。また、旧住民の中でもその地域の歴史背景によってさまざまな考え方や価値観がある。

## ●社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会（社協）は、社会福祉法に基づいて、全国の市区町村に設置されている民間団体（社会福祉法人）です。社協は、住民のみなさんとともに、ボランティア活動や在宅福祉サービスなど、地域福祉の推進に関する各種事業を行っています。

また、尼崎市社協では、各地区に住民のみなさんのもっとも身近な窓口として社協の支部事務局を置き、地域の実情に沿った事業を展開しています。

## ●社協の仕組み：6支部・74連協・616単協



## ●社協の成り立ち

解散	<ul style="list-style-type: none"> <li>太平洋戦争の終戦後に、GHQ（連合軍最高司令官総司令部）の命令で、<u>旧町内会組織に解散命令</u>（昭和22年）</li> </ul>
復活	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉事業法（昭和26年）に基づき、尼崎市社会福祉連合協議会発足。市の後押しで<u>旧町内会組織をベースに単位福祉協会を設立</u></li> <li>講和条約の発効（昭和27年）により、町内会が合法化～他都市では町内会を再組織。本市の単位福祉協会は、その名称は存続する一方で、<u>実質的には町内会・自治会としての色合いを強めていった。</u></li> </ul>
社協の強み	<p>地域福祉の現場に密着 見守り安心委員会、子どもの見守り、子育て支援、地域清掃 etc</p> <hr/> <p>地域福祉のネットワーク 約600人の福祉会長、約800人の民生児童委員、NPO等とのネットワーク</p>
社協の弱み	<p>加入率の低下、若い世代やマンション住民の多くが未加入（地域差が大きい）</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>社協とNPO・ボランティア等との関係（相互理解が不十分）</li> <li>会員の高齢化、担い手の不足</li> </ul>

## ●社協（単協）の様々な活動

### ・ふれあい、広報活動

お祭り、お餅つき、ふれあい喫茶など、楽しい行事の開催や交流の場づくり、掲示板や回覧での地域情報の共有など

### ・防災・防犯・地域福祉活動

登下校の見守り、高齢者の見守り、街路灯の維持管理、防災訓練など

### ・環境美化活動

公園やまちかどの清掃、花壇づくり、ゴミ置き場の管理など

## ●尼崎市社協の特殊性

尼崎市では、上記のような様々な地域活動を主に社会福祉協議会が行っている。

尼崎市：単位福祉協会（単協）⇔町内会 地縁組織はひとつだけ

他都市：校区福祉協会（社協）⇔町内会 ふたつの地縁組織が共存